

平成 24 年度 博士前期課程学位論文要旨

片麻痺患者における側方リーチ範囲特性及び座面圧力値と
ADL との関連についての分析

学位の種類： 修士（理学療法学）

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 理学療法科学域

学修番号：11895604

氏名：岡安 健

（指導教員名：網本 和）

注：1 ページあたり 1,000 字程度（欧文の場合は 300 ワード程度）で、本様式 1～2 枚（A4 版）程度とする。

（諸言）

本研究の目的は簡易的な座面圧力測定システムと座位での体幹回旋を伴った側方リーチ範囲の測定法（Lateral Reach Test in Sitting.以下 LRT-S）を用い、片麻痺患者の静的座位特性や動的座位特性を明らかにすることと共に、静的座面圧と身体能力との関連を検討する事である。

（対象と方法）

対象は脳卒中後片麻痺患者 30 名とした。方法は中央に水平指標を設置した縦 130cm、横 200cm の木製パネルを、端座位をとった対象者の前方に配置し、検査者が対象者に対して左右へ非麻痺側上肢をできる限り遠方へ伸ばすという教示を行い、右左右、左右右左の計 8 回施行した。対象者の座位座面圧測定は圧力測定システムを使用し、端座位静止時及びリーチ動作時に行った。得られたリーチ範囲測定値は身長で除した指数に変換し、座面圧力値は左右臀部に分けて、それぞれの臀部ごとに平均値を算出した。統計解析には左右リーチ範囲と左右座面圧力との関連を反復測定による二元配置分散分析及び多重比較（Bonferroni 法）、静止時座面圧特性と M-FIM との関係性を Pearson の積率相関係数を用いた。

（結果）

右片麻痺群のリーチ範囲は麻痺側（0.31）と比較すると非麻痺側へのリーチ範囲が 0.45 と有意に大きく、左片麻痺群のリーチ範囲は麻痺側 0.39、非麻痺側 0.44 と有意な差は認めなかった。また、右片麻痺群の静止時座面圧では麻痺側殿部平均圧 89.8mmHg、非麻痺側 97.2mmHg と有意な差は認めず、左片麻痺群の静止時座面圧では非麻痺側殿部（117.1mmHg）と比較すると麻痺側殿部が 148.4mmHg と有意に大きかった。静止時座面圧と M-FIM との関係では右片麻痺群の非麻痺側座面において中等度の負の相関を認め（ $r=-0.649$ ）、左片麻痺群の麻痺側座面において中等度の有意な負の相関を認めた（ $r=-0.585$ $P=0.036$ ）。

（考察）

左右片麻痺患者では静的座位特性及び動的座位特性がそれぞれ異なっていることが示唆された。このことは、右片麻痺患者の座位特性は身体機能が反映し、左片麻痺患者の座位特性は身体機能のみならず認知機能が影響していることが考えられる。また、座面圧力値測定は片麻痺患者の身体能力を反映する評価ということが示唆され、評価や治療における今後の臨床応用が期待できると思われる。